

◆ 業務時間・アクセス ◆

平日 午前9時～午後6時 土日祝は休業

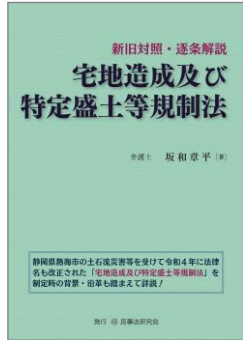
【大阪メトロ堺筋線・谷町線「南森町駅」から】

2番出口を出て左へ（西へ）。阪神高速の高架に向かって進む。高架をくぐったところになにわ北府税事務所があるので、その手前で左に曲がり、高架沿いに直進（南下）。1つ目の信号（西尾倉庫・みなみの森保育園の手前）で右に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



【地下鉄堺筋線・京阪「北浜駅」から】

26番出口を出てすぐの難波橋を渡る。2つ目の信号（Y字路の交差点「西天満1東」）を横断せずに右へ進むと阪神高速の高架があるので、その手前の信号「菅原町西」で堺筋を北へ横断。高架沿いに直進（北上）し、2つ目の信号（左手に西尾倉庫・みなみの森保育園の看板）で左に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



2023年6月22日撮影
細谷優子 永田ひとみ
坂和章平弁護士 橋詰彩佳

『新旧対照・逐条解説
宅地造成及び特定盛土等
規制法』
2023年1月出版
定価3,410円（税込み）

最新刊！『シネマ52』
2023年6月出版
定価1,320円（税込み）

暑中お見舞い申し上げます。

第1 ウクライナ戦争の転換は？

1) 2023年6月、ついにウクライナの反転攻勢が始まった。しかし、それが本格化するのにはなお日時を要する上、ロシアのミサイルやドローン、戦車や銃撃、さらには航空機による迎撃、反撃がなお強力だから、本来ウクライナの州であるルハンシク州、ドネツク州、ザポリージャ州、ヘルソン州からのロシア軍の撤退は未だ見通せない。ゼレンスキー大統領が盛んに叫んでいたクリミア半島の奪還も夢の世界だ。さらに、6/6に起きた南部のカホウカ水力発電所のダムが決壊による前代未聞の大水害の影響は大きく、ザポリージャ原発に供給していた冷却水の心配すらあるから、状況は深刻で予断を許さない。まさにアメリカのオースティン国防長官が言うように、“ウクライナの戦いはマラソン”の様相を呈している。したがって、ウクライナ戦争の早期終結、早期和解の可能性は低く、その実現までにはなお1、2年もしくは数年かかるだろう。2023年6月現在、それがウクライナ戦争についての概ね一致した分析だ。

2) 各分野の専門家を交えて、連日TV放送されるウクライナの戦況分析を見ていると、人類のこれまでの歴史と同じように、戦争の中でこそ最大の技術の進歩と戦術の進歩が実現することがよくわかる。消耗戦が続く中、双方の戦車・ミサイル・ドローン等の兵器と兵士の補充がどこまで続くのが最大のポイントだが、今後のゲームチェンジャーになる可能性があるのが、ウクライナ側の戦闘機。これまで活用されていなかったウクライナ側の航空戦力も、年内にパイロットの養成が完了し、米国製戦闘機F16の実戦配備が可能になれば、反転攻勢は一気に加速！南部と東部の集落や都市の奪還はもとより、クリミア半島も視野に？そこで一気に和平交渉になれば万々歳だが、逆にプーチンによる戦術核での反撃の危険も。さあ、どうするゼレンスキー！そして、NATO諸国と米国は？

第2 米中関係の過去・現在、展望は？

1) トム・クルーズ主演の『トップガン マーヴェリック』(20年)、『シネマ51』12頁)が大ヒット。有人飛行で某国の某施設を破壊するという“特殊任務”とは一体ナニ？空母から発射されたトップガンたちは、トマホーク(巡航ミサイル)が敵施設を破壊している2分30秒以内に超低空飛行で敵の核施設へ。トム・クルーズならそれも可能！？他方、“一带一路政策”を押し進める中国では、アフリカの某国で起きた内戦をめぐって“中国版ランボー”が中国人民と祖国のために大活躍する『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』(17年)、『シネマ41』136頁)が興行収入歴代トップとなる大ヒット！ラストで大写される中国のパスポートには大拍手も！昨今の中国の軍事力はそこまで大きくなっているが、中華人民共和国建国直後の朝鮮戦争当時は？そこに思いを馳せて「中国共産党成立100周年祝賀作品」として、また「中国勝利三部曲」の第2作として、チェン・カイコーら3人の巨匠が共同演出した175分の戦争巨編『1950 鋼の第7中隊』(21年)、『シネマ51』18頁)も大ヒット！歴代トップの1130億円を記録した。しかし、「抗米援朝」とは？毛沢東主席の決断とは？約150名で構成された第7中隊の奮闘とは？今でこそアジア方面の軍事力は中国優位だが、1950年当時は米国との差は絶大！制空権のない中、そして零下40度という極寒の雪原の中、革命烈士たちの奮闘とその死にザマは？この犠牲は次世代の若者が平和に生きるため！そんなメッセージを、日中国交正常化50周年を迎えた今、私たちはどう受け止めるの？それがテーマだが、第7中隊の死から73年。現在の米中関係は？

2) トランプ政権は北朝鮮とも中国とも首脳会談に積極的だったが、バイデン政権では2022年11月のG20サミットに合わせて米中首脳が会談し意思疎通の継続で合意したが、今年2月に中国の偵察気球が米本土に飛来した問題を受けて、プリンケン國務長官の訪中が延期。昨年2/24のロシアによるウクライナ侵攻や半導体を中心とする経済安全保障問題の激化等もあり、米中関係は最悪に。新冷戦ともいえる状況になっている。「1つの中国」政

策を維持しつつ、台湾の武力支援を強化する米国を、中国は「内政干渉」と非難し「武力行使の可能性も放棄しない」と明言しているから、「台湾有事」は、日本はもとより東南アジア最大の関心事だ。さらに、人権問題をめぐって、新疆ウイグル自治区でジェノサイド(集団殺害)や強制労働を進めていると主張する米国に対し、中国はジェノサイドの批判は「今世紀最大のうそ」と反論し、議論はかみ合っていない。着々と軍事力を強める中国は近時、とりわけ東シナ海、南シナ海方面の海軍力を増強しているのに対し、米国は「航行の自由作戦」の維持を強調しているから、ひょっとして万一の不測の事態も・・・？

3) そんな状況下、6/18～19、北京を訪問したプリンケン國務長官が、①秦剛國務委員兼外相②中国外交担当トップの王毅共産党政治局員と会談。台湾情勢も念頭に衝突回避の重要性を訴え、対話の拡大を模索した。注目の習近平国家主席との会談は、この字テールの中央に習氏が座り、左右に米中の実務者が座る形で実現したが、この配置は異例！いかにもメンツにこだわる中国らしいが、その意味するものは？会談で習氏は「2つの大国が万難を排除し、相互尊重、平和共存、協力、ウィンウィン(相互利益)の正しい道を見つかることができると信じている」と強調し、「両国間に存在する共通の利益は重視されるべきだ」「全体的に率直で誠意があり、深く掘り下げた内容になった」と述べた。他方、米国側が求めた国防当局間の対話に応じなかったし、台湾問題について「中国にはいかなる妥協、譲歩の余地もない」と強調したから、会談の実質的な成果はイマイチ。もっとも、米側はハイレベル外交再開の目的を「偶発の衝突を避けること」に置いているから、今後は軍同士の意味疎通の復旧も焦点となる。

4) プリンケン訪中によって、中国の対米対話重視の姿勢が明確になったため、米中首脳会談への期待が高まった。可能性があるのは、9月にインドで開くG20首脳会議。または11月の米国でのアジア太平洋経済協力会議(APEC)の首脳会議の場。軍事面や経済安全保障面で

厳しい情勢にある中、米中の“雪解け”ムードが芽生えたかに見えた途端、世界は2つのニュースにビックリ！第1は、中国が合同軍事訓練の拠点設置に向けて、カリブ海の社会主義国キューバと協議していることと報じられたこと。米政府はキューバ政府に対し、中国と拠点設置で合意を結ばないように働きかけているそうだが、これはひょっとして1962年に米ソ（ケネディとフルシチョフ）間で発生したキューバ危機の二の舞に？第2はバイデン大統領が6/20、カリフォルニア州の集会で中国の偵察気球の墜落に触れる中、習氏について「彼が本当に動揺したのはそれがそこにあることを把握していなかったからだ！何が起きたのかを把握できないことは独裁者にとっては大恥だ」と語ったこと。中国政府はこれに「強烈な不満を持ち、断固として反対する」「公然たる政治的挑発だ」と猛反発。こりゃ、かなりヤバイ。

5)2024年1月の台湾の総統選挙を巡っては大陸との間で激しい駆け引きが強まっているが、同年11月の米国大統領選挙を巡っては、予想していた（心配していた？）通り、バイデン（民主）VSトランプ（共和）の再対決の可能性が強まっている。しかし、バイデンは高齢問題の他、次男の訴追問題があるし、トランプは刑事被告人とされているから、どっちもどっちだ。中国と並ぶ二大國たる米国のリーダー選びが、こんなザマでいいの？

第3 岸田政権はよくよく運の強い男！2022年7/8の安倍晋三元総理の銃撃死は痛ましい事件だが、彼にはラッキー！最大派閥、安倍派（清和政策研究会）の後継者が“5人衆”の綱引きで決まらない中、少数派閥の彼が総理総裁の座にあるのも幸運！“外交の岸田”を自認する彼にとって、5/19から広島で開催されたG7サミットは最高の晴れ舞台。そこにゼレンスキー大統領を迎えたハブニングは、3/21のウクライナ電撃訪問に並ぶ彼のクリーンヒットだ。サミット直前、4/23の衆参5つの補欠選挙での4勝1敗は上出来だから、岸田内閣の支持率が上昇気流にあったその時に彼が衆議院解散・総選挙を決断すれば・・・？

1)岸田文雄はよくよく運の強い男！2022年7/8の安倍晋三元総理の銃撃死は痛ましい事件だが、彼にはラッキー！最大派閥、安倍派（清和政策研究会）の後継者が“5人衆”の綱引きで決まらない中、少数派閥の彼が総理総裁の座にあるのも幸運！“外交の岸田”を自認する彼にとって、5/19から広島で開催されたG7サミットは最高の晴れ舞台。そこにゼレンスキー大統領を迎えたハブニングは、3/21のウクライナ電撃訪問に並ぶ彼のクリーンヒットだ。サミット直前、4/23の衆参5つの補欠選挙での4勝1敗は上出来だから、岸田内閣の支持率が上昇気流にあったその時に彼が衆議院解散・総選挙を決断すれば・・・？

2)今国会では、増額した防衛費の「財源確保法」をはじめとして、60法案のうち58本が成立した。「LGBTなどの性的少数者への理解増進法」も野党との修正協議で成立させ、立憲民主党が提出した内閣不信任案は肅々と否決して、150日間の通常国会を6/21に閉会した。ウクライナ戦争を契機として、国会での防衛論議や防衛費、防衛装備を巡る議論が深まったが、それは未だ国民の中には浸透していない。岸田内閣が看板に掲げた経済政策に関わる「金融商品取引法改正案」と「社債株式振替法改正案」は継続審議になってしまった。そんな終盤国会で注目されたのは、含み笑いの中で総理が語った、衆院解散の可能性とその大義だ。

3)今国会での解散はない。そう明言した直後、マイナンバー制度のトラブル続出の影響を受けて岸田政権の支持率は下落。政務秘書官を務めていた長男（バカ息子？）の不祥事発覚、更迭もその一因だ。岸田首相の自民党総裁の任期は2024年9月、衆議院議員の任期は2025年10月だが、目下語られている最有力シナリオは①7月の北大西洋条約機構（NATO）首脳会議での実績を武器に、②夏から秋にかけて内閣改造と自民党役員人事を断行、③9月のG20サミットの成果を引っ掛けて、④秋の臨時国会で衆院解散・総選挙、というものだ。閉会後の記者会見で党総裁任期中の憲法改正の考えを強調したのもその布石？政治の世界は一寸先が闇だから、秋まで見守ることは不可能だが、岸田内閣の行く末は？命運は？

第4 奈良県知事の“大ナタ”に注目！

1)4月の統一地方選挙では日本維新の会の躍進が目立ち、大阪府知事と大阪市長は予想通

りの圧勝。奈良県知事選挙でも、元生駒市長で弁護士山下真が当選。大阪府以外ではじめて維新公認の知事が誕生した。

2)①2008年1月の選挙で大阪府知事に当選し、②2010年4月に結党した地域政党、大阪維新の会の代表に就任し、③2011年11月の府市ダブル選挙で大阪市長に当選した、弁護士の橋下徹氏の“維新流大ナタ”は賛否両論を呼んだが、私は断固支持！彼には無責任なコメントテーターではなく、有言実行の責任ある政治家に戻ってもらいたい。それが無理ならせめて山下氏に！そう思っているが早速、6/12の記者会見で73億円の奈良県予算の執行を中止すると発表したからビックリ。近鉄奈良線の移設・大和西大寺駅の高架化、平城宮跡歴史公園の整備をはじめ、中止を決めた15事業はすべて荒井正吾前知事の“肝いり”事業だ。

3)議会の過半数を持たない中で橋下改革は苦労したが、さて奈良県では？今回の予算削減は減額補正予算案を改めて議会にはかるという手続きを取らず、知事権限で執行を停止したから、自民系会派が過半数を占める県議会の議決は不要になったが、そんな山下流大ナタの成否は？

第5 生成AIはどこへ？活用は？

1)私は来年弁護士50周年を迎えるが、独立した1979年に購入した、大阪で3台目のワープロ（ワードプロセッサ）は300万円。しかし、普及とともに価格は劇的に下がり、ワープロからパソコンの時代に移行した。コピーだって、昔の湿式（＝青焼き）を知っている人は少なくなっているはずだ。携帯電話もシヨルダース式で1台30万円もしたものが、今や片手に持つスマホですべてができる時代。そして、あらゆる分野にAI（人工知能）を活用する時代に入っている。将棋や囲碁では既にAIは人間と勝負しているし、NHK杯では常にAIによる優劣判定が表示されている。

2)そんなAIが2023年、“更なる進化”を遂げた。それが、人工知能（AI）を使って文章や画像を自動作成する生成AIだ。弁護士には“書き弁”と“しゃべり弁”がいるが、“書き弁”は長い間の実践と鍛錬の中で少しずつ会得していくもの。しかし、生成AIによれば訴状や準備書面の作成もすべてOKだから、こりゃ便利？法律相談だって生成AIに聞けばすぐに正解を教えてくれるから、高い費用を払って弁護士に聞く必要なし？デジタル化が遅れている司法の世界も、生成AIを使えばイテコロ？たしかにその通り、便利なことは便利だ。しかし、著作権の侵害は？弁護士法の抵触は？夏休みの宿題の定番である「読書感想文を書け」だって、10分もあれば完成するから、こりゃちょっとヤバイのでは・・・？

3)政府は6/11、人工知能（AI）の活用に関するルール作りなどを議論する「AI戦略会議」の初会合を開いた。これは対話型AI「チャットGTP」などの生成AIが社会に普及しつつあることを踏まえ、教育機関や行政、企業がAIを使う際の活用法や規制の在り方について検討するものだ。ハリウッドでは1万人以上の脚本家が待遇改善とともに、人工知能（AI）が原作作りに関与しないよう製作会社側に要求。折り合いがつかなかったため、5月末には15年ぶりに大規模ストライキに突入した。7月末には俳優陣も加わる可能性があり、制作遅れを中心に損失は4200億円規模になりそう。1868年の明治維新によって、それまで士農工商の最上位にいた侍（武士）が無用の長物になってしまったのと同じように、「生成AIで脚本が書けるのならば、脚本家は不要！」。そんな理屈がまかり通っているの？

4)2023年4月に開催されたG7（先進7ヶ国）のデジタル・技術相会合では、AIの適切な利用に向けて、「信頼できるAI」の国際的な技術基準の策定を目指すとした共同声明を採択し、生成AIなどの新興技術には「法の支配」「人

権尊重」などの5原則を掲げ、開発・活用と規制の両立を図るとした。あたかも人間が作ったかのような文章や画像を作成する生成AIの普及で、著作権侵害や情報漏洩などへの懸念が強まっている米国では、6/20バイデン大統領が人工知能（AI）の急速な発展に対応したプライバシー保護の必要性があると、新たな情報保護法制の整備を超党派で進めるよう議会に求めた。個人情報の収集や子どもを対象とした広告の制限などの案を示している。対策が急を要すること明らかだ。遅ればせながらやっと日本で発足したAI戦略会議は、いつ、どんな結論を出せるのだろうか？

第6 将棋、囲碁、プロ野球、大リーグ

1)将棋界では藤井聡太六冠が6/1、渡辺明との名人戦に勝利し、谷川浩司十七世名人の史上最年少記録を40年ぶりに塗り替えるとともに、羽生善治九段以来、史上2人目の七冠を達成した。七冠とは竜王、名人、王位、叡王、棋王、王将、棋聖だが、永瀬拓矢との王座戦に勝って、前代未聞の藤井八冠が誕生することに。他方、6/9、日本将棋連盟の新会長に佐藤康光に代わって羽生善治が就任した。2024年は私の弁護士登録50周年だが、将棋連盟は創立100周年。この節目の年に、タイトル通算獲得99期を誇る羽生九段が会長職に就任するのは興味深い。99本の刀を奪った武蔵坊弁慶は、1000本目で京の五条大橋での牛若丸との対決に敗れたが、将棋連盟100周年の年に藤井七冠の壁陣を突破した羽生九段の100期目のタイトル獲得ができるかどうか注目！

2)囲碁界では、長らく井山裕太七冠が頂点に君臨していたが、数年前から若手の台頭が始まっていく。現在の七大タイトルは、井山が本因坊と王座と棋聖、芝野虎丸が名人と十段、一力遼が棋聖、関航太郎が天元を保持している。2023年にスポンサーの資金難から本因坊戦が賞金額を減額し、リーグ戦をやめてトナメント戦にすると共に番勝負も他の棋戦と同じく1日制5番勝負に変更したのは実に残念だ。“巨人・大鵬・卵焼き”の時代も面白かったが、逆に英雄が乱立する戦国時代も興味深い。この4強によるつばぜりあい注目したい。

3)将棋界の女流棋士は女性特有の地位で、日本将棋連盟の棋士とは似て非なるもの。男女の能力差も歴然としている。それに対して、囲碁界では女性も男性と対等の棋士だから、将棋界とは大違い。タイトル戦への女性棋士の登場も間近と見られている。また、仲邑菫三段をはじめとする10代の活躍が目覚ましく、現在は、上野愛咲美が女流名人と女流立錫杯、藤沢里菜が女流本因坊、仲邑が女流棋聖、牛栄子が扇興杯、小西和子がテイケイ杯の各タイトル保持者になっている。これら女流棋士による“女の戦い”もしっかり楽しみたい。

4)阪神タイガースの“アレ”は現実になりそう！セパ交流戦はDNAが初優勝し、阪神は7勝10敗1分けに終わったが、湯浅と岩崎の抑え失敗が無かりせば？トラ軍団前半戦の快進撃を見れば、アレはきっと可能だ。そのためには、崩れた救援陣と低迷する打線の立て直しが必要だが、矢野燿大に代わった岡田彰布監督の采配ならきっと！後半戦にも期待！

5)大リーグ、エンゼルスの大谷翔平選手の前半戦の活躍はすごい。6/22現在、投手として6勝3敗、防御率3.13、打者として打率.292、本塁打24本、打点58点はアンビリーバブル！オールスター戦への出場や通算5度目の週間MVP受賞等は当然で、シーズン終了時には本塁打王、打点王に輝いている可能性すら現実味を帯びている。その上、規定打球回数を達成した投手としての勝利数、防御率はどんな数字に到達しているのだろうか。更にそこにチームの優勝という結果を伴えば、さて来季の彼の本年はHow much?

2023（令和5）年盛夏（2023年6月23日記）
坂和総合法律事務所
所長 弁護士 坂和 章平

事務所と坂和章平弁護士の近況報告

第1 弁護士業務の現状

1) 平日午前中の帝国ホテルのフィットネスクラブでの40分、1kmの水泳とサウナ、日曜日早朝の水泳、サウナに続く、全身マッサージ(1時間)と足つぼマッサージ(1時間)が定着した昨今の私は絶好調。本来の弁護士業務は数も少なくなり、割く時間も短くなったが、私の知見が不可欠な相談や事件については充実した弁護士業務をこなしている。しかし、現状の私の主な仕事は執筆業と不動産業・・・?

2) パソコン要員として月に1、2度バイトで来ていた橋詰彩佳が4/1から正式に入社した。これにより私の“執筆可能総容量”が大きく拡大したため、映画評論の充実度が高まると共に、法律書や論文執筆の意欲が高まり、ウェイボー等の執筆も増えている。彼女の今後の仕事ぶりに期待したい。

3) 郭小莉さんの米国新規事業への協力(5頁・写真①)

従前から中国関連の契約書チェック業務等の依頼が相次いでいたが、今般20年来の友人である郭小莉さんが事務所をコートビル201-B号室に移転。これにより彼女との仕事上の繋がりが深まったが、米国テキサス州での起業プランを聞き、それに全面協力することに。6月の2週間にわたる渡米によって、クッキーのチェーン店の営業譲渡を受けることによる経営ビザ(=E2ビザ)取得が可能になった。新規事業に多額の資金を要するのは当然だが、それを支援する合意も成立したので、夏以降はテキサス州での新ビジネスが本格化するはずだ。テキサスはメキシコからの独立を巡って激しく戦った“アラモの砦”の物語が今も生々しく残る、独立心に富んだ州で、物価は比較的安く、自然の美しい町らしい。そんな新天地で一世一代の女の大勝負をかける彼女をしっかりと見守り、かつ応援したい。

第2 (有)エスケイ・ロービジネスの仕事が拡大・充実

1) もともとの同社の業務は法律事務所のタイプやコピーの請負だったが、事務所を2001年にコートビルに移転させた後は不動産購入に伴う賃貸業務も増えてきた。橋詰の入社に際しても、1月から社宅提供のためのマンション探し本格化し、3月には桜宮にある72㎡のマンションを購入。橋詰は5月末に入居した。更に、その際優良物件があったためもう1件購入し、賃貸物件とした。大阪市内の不動産(マンション)価格は高騰しているが、今回の2物件は借地権付のマンション。そんな物件を扱ったのは弁護士49年ではじめてだが、10件以上あれもダメ、これもダメと“カラ作業”を続けた結果、このような優良物件に巡り会えたことに感謝!

2) 自己使用以外のコートビルの賃貸物件は“空室なし”が続いている。402号室の法律事務所退去に伴う陣内法律事務所の入居も順調に進んだし、今年5月に退去した101号室についても、新たに不動産業務を扱う(株)神栄不動産が入居した。また、201-B号室には5月から新たに郭小莉さんが経営する(株)展智ビジネスリンクが入居した。201-A号室には従前より淵博(株)が入居しているが、常駐しているわけではないので、会議室や卓球台を含めてシェアが可能。これまでも中国関係の各種イベントに活用してきたが、彼ら彼女らの活躍の広がりに合わせて更なる活用を期待したい。

第3 中国関連業務・日中友好活動

1) 2023年度広報アドバイザーに就任(4頁・写真⑤)

昨年11/11に開催された大阪映画週間の開会式&レセプションに、中華人民共和国駐大阪総領事の薛劍氏、映画監督の滝田洋二郎氏と共に登壇し中国映画の魅力について対談した縁で、今年3/28には広報アドバイザーに委嘱された。西区の阿波座にある総領事館をはじめ訪問し、就任式後は会食しながら日本人6名、中国人4名、計10名のうちの1人としてさまざまな抱負を語り合った。

2) 総領事館官邸で竹内監督を囲む夕食会(5頁・写真⑬)

続いて、5/29には森の宮にある総領事館官邸で、ドキュメンタリー映画『再会長江』の竹内亮監督を囲む夕食会に数名の広報アドバイザーと共に出席し、超豪華な宮廷料理を食べ

ながら、同作の話題を中心に懇親を深めた。

3) 蒙令华氏の取材(5頁・写真⑯)

6/6、上海と日本を行き来しているジャーナリストで、王少鋒先生の友人である蒙令华さんの取材を受けた。中心テーマは“坂和の中国電影論”だが、“弁護士業務のあり方論”から“人生論”、“恋愛論”に至るまで、多岐にわたることになった。6時から場所は“そじ坊”に移し、会食しながら更に議論を深めた。お互いにとって極めて刺激的な時間を過ごすことができたことに感謝。彼のまとめた記事がどんな形で発表されるか、楽しみにしながら待ちたい。

4) 新疆ツアー第一陣壮行会に出席(5頁・写真⑳)

中華人民共和国駐大阪総領事館が6/19~28まで日本人向けに開催する新疆ツアー「第一陣」の壮行会が6/18に総領事館で開催。広報アドバイザーの一員として出席した。敦煌より更に西にある新疆ツアーの成功を期待し見守りたい。

第4 執筆活動(1)『新旧対照・逐条解説 宅地造成及び特定盛土等規制法』を出版!改訂版も視野に!

1) 2021年7月の豪雨によって熱海市伊豆山地区で発生した大規模土石流災害を契機として、2022年3月に「宅地造成等規制法の一部を改正する法律」が成立した。昭和43年~44年の近代都市法の成立に先立って、昭和36年に成立した宅地造成等規制法は、宅地造成工事規制区域を定め、同区域内での工事等を知事の許可に係らしめた重要な法律。田中角栄元首相が主導した新全国総合開発計画(新全総)や日本列島改造論に基づく宅地の乱開発を規制する重要な都市法で、都市計画法29条が定める開発許可の前身とも言うべきものだ。しかし、同法の解説書はほとんどないため、「ならば俺が!」と思いついた。今年10月から約1か月の間で『新旧対照・逐条解説 宅地造成及び特定盛土等規制法』を完成させ、2023年1月民事研究会から出版した。

2) 「公布の日から1年以内」と定められた新法の施行は2023年5月、基本方針の策定・公表も5月、政令や主務省令の制定も5月の予定だから、2023年6月以降はその学習と理解が不可欠だ。さらに新法で定められた宅地造成等工事規制区域(10条)、特定盛土等規制区域(26条)、造成宅地防災区域(45条)が、旧法のそれらと対比してどのように指定され、施行を解除されるかが大きなポイントだ。それらを解説した改訂版が不可欠だが、そのためには本書の売上が条件となる。近時、水害列島化している日本では、2023年5月末に梅雨入りした直後の6月初め、台風2号の影響もあって和歌山、静岡を中心に水害と土砂災害に見舞われた。地球温暖化の影響を受けて、世界的にもハリケーン等の異常気象が頻発している。水害と土砂災害はどうして起きるの?その対策・規制はどうあるべきなの?そんな法的な論点を本書でしっかりと勉強したい。改訂版出版のためにも、ぜひ本書のご購入を。

第5 執筆活動(2)新日本法規出版の加除本

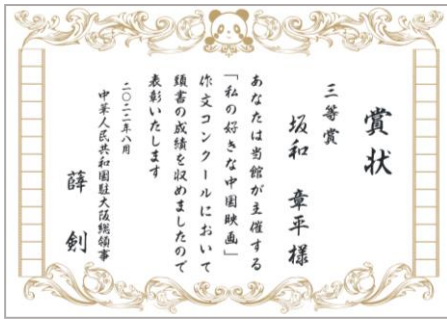
1) 『問答式 土地区画整理の法律実務』は、4月に「柔らかい区画整理の手引き~小規模な区画の再編・活用のすすめ~」が策定されたことに伴い、それに関連した新設問を執筆中。7月には名古屋での編集会議にリモートで参加する予定だ。

2) 『わかりやすい都市計画法の手引』は、序章第2節に改正盛土規制法についての加筆、現在の情勢に合わせた補正等をするとともに、各条に参考判例を追加をした追録52~54号が1月、2月に発行された。

3) 『Q&A 災害をめぐる法律と税務』は、いつもネタが豊富にあるが、今年は、警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域などの「東日本大震災における原子力災害対策特別措置法に基づく住民対策としての区域設定」を中心に、さまざまな新設問を多数執筆中だ。

第6 執筆活動(3)『シネマ52』(4頁・写真㉑)

橋詰彩佳の入社に伴い、映画評論執筆の意欲と内容の充実度が拡大した。『シネマ52』は第95回アカデミー賞の話題作が満載だが、その他も力作揃い。表紙写真は子ども本の森中之島での撮影会を遂行!その出来は如何に?



【写真①】 1/12 中華人民共和国駐大阪総領事館
主催の作文コンクールの表彰状と受賞作品集



【写真②】 1/17
愛光関西9期
囲碁会・将棋会

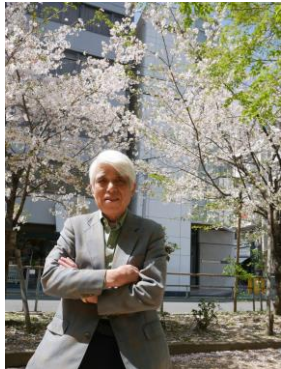


【写真③】 1/19
阪大ロイヤリング講義



【写真④】 1/26 74歳の誕生日

【写真⑤】 3/28
中華人民共和国駐大阪
総領事館の2023年度広報
アドバイザーに就任！



【写真⑥】 4/1
西天満公園で町内会主催の
お花見



【写真⑦】 4/8
孫くんが来阪



【写真⑧】 4/12
『シネマ52』の表紙撮影



【写真⑩】 4/27 中国の雑誌『知音』のインタビュー



【写真⑨】 4/22 姜くん宅訪問



【写真⑪】 4/28
李クンが友人たちと来阪



【写真⑫】 5/4
毛丹青夫妻、淡勃夫妻らと自宅でホームパーティー



【写真⑬】 5/7
徐潮さんが来阪！



【写真⑭】 5/20～22
苦小牧でゴルフ



【写真⑮】 5/29
中国駐大阪総領事館の官邸で夕食会



【写真⑯】 6/6
蒙令华さんからの取材



【写真⑰】 6/14 郭小莉さんと打合せ



【写真⑱】 6/18
「新疆ツアー第一陣」 壮行会・夕食会



中国映画の作文コンクールの表彰状・受賞作品集・賞品が届いた！(1/12) (4頁・写真①)

1/12(木)、中華人民共和国駐大阪総領事館主催の中日国交正常化50周年記念「わたしの好きな中国映画」作文コンクールの三等賞の表彰状と受賞作品集、そして、たくさんの賞品が送られてきた。頑張って書いた結果だから、こんな成果を率直に喜びたい。これを励みとして、さらに映画評論家としての執筆活動を続けたい。

愛光関西9期囲碁会・将棋会を開催(1/17) (4頁・写真②)

1/17(火)、愛光関西9期会の井上、村上、坂和の3人で囲碁会と将棋会を開催。1時から井上VS坂和の囲碁で、3時半から村上VS坂和が将棋で熱戦を展開した。今年も、月に一度定期的に開催することを決定しており、1/17はその第1回。今年も皆さんよろしく！

阪大ロイヤリング講義(1/19) (4頁・写真③)

1/19(木)の15:10~16:40、大阪大学の法学部特殊講義「ロイヤリング」で「まちづくりの法と政策」と題する90分の講義を実施。1968年の都市計画法を中心とした近代都市法の成立から、近時の重要土地取引規制法等の目まぐるしい法改正を解説、そして最後に、近時のトピックスとして、大阪のまちづくりの面白さを語り、10年後、20年後、この講義を聴講した学生の中から新たな時代にふさわしい都市問題の研究者が育ってほしいことを訴えた。

74歳の誕生日(1/26) (4頁・写真④)

2015年9月の大腸ガン、2016年11月の胃ガンが幸いにも初期だったため、手術の成功後、転移もなく、無事7年、6年が経過。今は、原則的に帝国ホテルフィットネスの毎日1km、40分の水泳とサウナが習慣化し、体調は良好。そんな中、2023年1/26、74歳の誕生日を迎えることができた。いつも株の取引をしている岡三証券(株)梅田支店からはお祝いのお花が。さらに事務員からは近時恒例になっている“ボディたわし”4個のプレゼントが。I am Happy! 生日快乐

西天満公園で町内会主催のお花見(4/1) (4頁・写真⑤)

4/1(土)、西天満公園で3年ぶりの町内会主催のお花見が開催された。1週間前の天気予報では雨だったが、当日は快晴！3月中旬から咲き始めた桜も、まさに今が満開だ。

最高のお花見日和の中、おいしいお弁当と1本のビールで大満足！4/3(月)からの新年度の業務に向けて頑張ろう！との決意を新たに。

孫クンが来阪(4/8) (4頁・写真⑦)

4/8(土)、上海で仕事をしていた毛丹青老師の教え子である孫クンが数年ぶりに来阪。5時から谷四のさかなや道場で食事をしながら話していると、いつの間にか10時になっていた。それでも緊急報告のほんの一部だから語るべき内容は多い。日本での「永住」を期待しながら、彼の今後の活躍を見守りたい。

姜クン宅訪問(4/22) (4頁・写真⑨)

4/22(土)、毛丹青老師の教え子である姜程源クンご夫妻が住む西宮の一戸建ての自宅を訪問。13年前の2010年3/15の威海旅行では、日清戦争の時代に清国が誇った巨大戦艦「定遠」を実物大で再現させた巨大テーマパークを見学したが、その時のテーマパークの責任者が姜クンのお父様だった。息子の来日、永住権取得に伴って、ご両親の人生設計もグッと日本に近づいているようだ。姜クンの新たな起業と、奥様に待望の第一子誕生の予定を聞き、彼ら一家の今後の発展を期

待しつつ、しっかり見守りたい。美味しいご馳走に舌鼓を打ちながら積もる話をタップリした上で、記念撮影を。

中国の雑誌『知音』のインタビュー(4/27) (4頁・写真⑩)

4/27(木)、安徽省出身の友人、楊陽(ヤンヤン)の紹介で、中国の雑誌『知音』のインタビューを受けた。通訳をしてくれたのは大阪電気通信大学の王少鋒先生。取材の中心は中国映画になったが、私も長い間勉強している中国語をフル活用できないまでも、折に触れて使いながら楽しいインタビューを完成させることができた。

李クンが友人たちと来阪(4/28) (5頁・写真⑪)

GW中の4/28(金)、李淵博クンが観光のためやって来た上海の友人たちと共に帰国し、事務所へ。元裁判官で現在は上海で弁護士をしている友人や、音楽大学を卒業してミュージシャン活動をしている友人とその弟など、多士済々。ゆっくり話す時間はなかったが、今回は酒肴を交えながら昨今の上海事情と中国事情をしっかりと聞き取りたい。コロナ禍が収まった今、激増する中国人観光客への期待は大きいですが、さて？

毛丹青夫妻、淡勃夫妻らと自宅でホームパーティー(5/4) (5頁・写真⑫)

毛丹青老師の友人で、北京に住む有名な美術家、室内設計家、投資家の淡勃(ダン・ボウ)さんが、依頼事件が無事解決したことに伴ってGW中に奥さんと共に来阪。5/4(木)に、私のマンションで息子の宏展弁護士も参加し、毛丹青夫妻共々、約5時間、みっちり話し合った。レストランではなくホームパーティーなら身も心もくつろげるため、次から次へと本音の話題が登場！中国の実情をタップリと聞くことができたから大いに参考になった。食後の雑談の中では、私が中学時代に描いた油絵について、淡さんから専門家としてのコメントが。私の心の中に映画に少し飽きたら再度油絵をやってみようとの気分が俄然盛り上がることに。えうご期待！

徐潮さんが来阪！(5/7) (5頁・写真⑬)

1) 5/7(日)、今や日本経済新聞の記者として東京でバリバリ働いている元中国人留学生の徐潮さんが4年ぶりにGWを利用して、2週間中国の故郷へ帰国し、その最終日に来阪。屋敷に彼女が希望したおいしいお寿司を食べながら約4時間、積もる話をいろいろと。やりたい仕事に就ける喜びと経済的に十分な安定は、長い間頑張ってきたことへの何よりのご褒美。今や自信を持って日々の業務に励んでいることがよくわかった。

2) 日本人に帰化するかどうかは彼女にとっての今後の重大なテーマだが、自分の進路をしっかりと見据えながら、着実に前進することを期待！前途は洋々。新聞記者としてしっかりと良い仕事をしてもらいたい。四川省からお土産は、『三国志』で有名な張飛の豆干。很好吃！

苫小牧で株主総会とゴルフ(5/20~22) (5頁・写真⑭)

監査役を務めている株式会社苫小牧技研の株主総会への出席と連チャンゴルフのために5/20、21、22と2泊3日の日程で北海道の苫小牧へ出張。20日(土)の株主総会ではさまざまな経営上の論点について真剣に議論したが、翌日のゴルフも真剣。1年ぶりの練習なしの雨の中でのプレイは散々な出来だったが、快晴の22日(月)はドライバーもアプローチも、更にパットも自分なりに絶好調！次回の7/29、30、31は経営会議と連チャンゴルフの他、札幌に新規開場されたエスコンフィールドHOKKAIDOで日本ハムVSオリックス戦を観戦する予定なので楽しみ。連チャンゴルフは練習ゼロでも更なる前進を期待！

<話題のアカデミー賞3作！>

1) 『ザ・ホエール』(22年、アメリカ)

あなたは昔のプロ野球球団“大洋ホエールズ”を知ってる？それを持ち出すまでもなく、“ホエール”とは鯨のこと。アカデミー主演男優賞を受賞したブレンドン・フライザー演じる体重272kgの中年男の姿を見れば、そのタイトルにも納得！他方、あなたはメルヴィルの小説『白鯨』を知ってる？

この男は、なぜ過食症になったの？その心の傷は、なぜ癒えなかったの？舞台劇を映画化した本作は5人の男女の会話劇だが、韓国のホン・サンス監督による数々の軽妙かつおしゃれな会話劇とは大違いだ。『白鯨』絡みの会話はもとより、宗教（聖書）絡みの会話もチョー難解！その上、パンフレットにあるコラムもレビューもクソ難しいから、本作の理解にはよほどの覚悟と勉強で臨まなければ！

2) 『TAR ター』(22年、アメリカ)

弁護士登録直後の1974年頃に、稼ぎにまかせてクラシックレコードを買い漁っていた私は、カラヤンもフルトヴェングラーも、そしてレナード・バーンスタインもよく知っているが、寡聞にしてベルリン・フィルを率いた天才女性指揮者リディア・ターは知らなかった。しかし、それは当然。なぜならターは実在の人物ではなく、トッド・フィールド監督が女優ケイト・ブランシェットに“あて書き”をした脚本上の人物だからだ。もっとも、冒頭のインタビューで語られる輝かしき経歴を聞き、目下大活躍を続けているターの姿を見ていると“ホンモノ感”が顕著だから、騙される人も多いはずだ。

英語ではなくドイツ語での、ベルリン・フィルに対するマーラーの交響曲第5番のリハーサル風景はすごい。レズビアンを公言した私生活も築き上げた“ター王国”の一部だが、①某若手女性指揮者の自殺、②ベルリン・フィルの副指揮者の更迭、③ジュリアード音楽院の授業でのパワハラ(?)行為、④交響曲第5番のカプリング曲への新人チェロ奏者の抜擢、等々の“独断専行”が突出しすぎると、オーケストラ内の不協和音が広がったのは当然。そこにSNS上での炎上事件が加わるとターの苦境は？

本作ラストの注目は、失脚してしまったターによる“これは寓話？”と思うようなコンサート風景。この会場はどこ？演奏しているオーケストラは誰？“アジアの風が吹いた”と言われる第95回アカデミー賞は、『エブエブ』こと『エプリシング・エプリウエア・オール・アット・ワンス』(22年)が7部門を受賞し、本作はことごとく敗北したが、せめて主演女優賞だけはケイト・ブランシェットに獲らせたかった。そんな思いは私だけ・・・？

3) 『エプリシング・エプリウエア・オール・アット・ワンス』

(22年、アメリカ)

この長ったらしいタイトルは一体ナニ？略して『エブエブ』の意味は、「あらゆることが、あらゆる場所で、いっぺんに」。そして、そのキーワードはマルチバース(多元宇宙)。そう言われても、“メタバース”をやっと理解した70代のじいさんには、そんな“奇想天外”“ぶっ飛んだ内容”の理解はムリ。“トンデモ脚本”

も“〇〇宇宙”も“△△世界”も理解不能！そう思いつつ鑑賞してみると・・・。

アカデミー賞最多10部門11ノミネートの本作は、作品、監督、脚本の他、主演女優、助演男優、助演女優等7部門をゲットしたからすごい。もっとも、アジサイの七変化、大和撫子七変化ならぬ、ミシェル・ヨー扮するヒロインの姿を観て、楽しさワクワク？それともバカバカしさにうんざり？

<注目の邦画3作！>

1) 『怪物』(23年)

今や枝裕和監督はカンヌの常連で、顔。『誰も知らない』(04年)、『万引き家族』(18年)に続いて、彼の快挙が！そう思っていたが、今回は坂元裕二が脚本賞をゲット！これは、役所広司の主演男優賞と共に邦画界の快挙だが、是枝監督にとっては喜びも半分・・・？そんな下衆の勤練りはともかく、絶賛ぞろいの評論の中、『キネマ旬報』6月下旬号の「REVIEW 日本映画&外国映画」における、井上淳一氏の星1つの採点と「いつも以下の是枝映画。海外もいい加減、有り難がるのをやめたら。」という“ボロクソ評論”にも注目！

“羅生門方式”に基づく母親の視点、教師の視点はわかりやすいが、第3章の2人の子供たちの視点は複雑かつ難解！あなたはどの理解する？本作は同時に「クィア・パルム賞」=「LGBTQ賞」も受賞したが、それは一体なぜ？本作第3章に見る、子供たちの視点によるLGBTQとは？そんな中で徐々に明らかにされる“怪物”の正体とは？脚本を含めた本作の“本当の良し悪し”はあなた自身の目でしっかりと！

2) 『波紋』(23年)

近時、女性監督の活躍が目覚ましいが、日本でもポチポチと。その一方の旗手たる荻上直子が、長年温めてきたオリジナル脚本で勝負！折りしも、安倍晋三元首相銃撃事件で旧統一教会が再注目されているが、“緑命会”なる新興宗教は一体ナニ？本作で百面相の演技(?)を見せる女優、筒井真理子演じる平凡な主婦・依子はなぜ今それにのめり込んでいるの？

『どうする家康』に見る家康の毎回の決断は歴史的に検証されているが、すべてオリジナルの本作では、こんな場合、あんな場合、どうする依子？

3) 『渇水』(23年)

近時の日本は“水害列島”化しているが、30数年前の芥川賞の候補作『渇水』のテーマは、日照り続きの中での停水執行！それを映画化した本作の主役として登場する水道局職員、岩切(生田斗真)の心の中の“渇き”とは？同時期に見た『波紋』(23年)は緑命会なる新興宗教が売り物とする“緑命水”をはじめ、“水の匂い”が満載だったが、本作はその逆。もっとも、岩切には“水の匂いがする”そうだが、それって一体ナニ？

母親がネグレクトされた幼い姉妹と岩切との交流はある日、思いがけぬ“反乱”を生むが、その“効用”をあなたはどうか考える？さらに、本作と枝裕和監督の『怪物』(23年)、荻上直子監督の『波紋』との比較対照は？

<近時大ヒットの、この中国映画に注目！>

小さき麦の花
全国順次公開中



©2022 Qizi Films Limited, Beijing J.Q. Spring Pictures Company Limited. All Rights Reserved.

パール・バックの『大地』(31年)は、大地に生きる貧農夫婦の一生を描いた一大叙事詩。第5世代監督による80年代の『黄色い大地』、『紅いコリヤン』は、壮大な歴史ドラマの中をたくましく生き抜く庶民の姿を描いた傑作だ。しかし、改革開放政策で急成長し、米国と覇権を争うまでの経済・軍事大国になった中国は今、『戦狼2』(17年)、『1950 鋼の第7中隊』(21年)等の戦争映画大作を増産中だ。そんな中、2011年の西北地方の農村を舞台にした何とも地味な本作が、ベルリンでの金熊賞こそ逸したものの、奇跡の映画と呼ばれて大ヒット！

なぜ2011年の農村を舞台にした現代版『大地』が大ヒット？
—『活きる』とは異質の、この夫婦愛に感動！邦題の意味は？—

監督：リー・ルイジュン
出演：ウー・レンリン、ハイ・チン
原題：限入塵煙 / 英語題：RETURN TO DUST / 2022年 / 中国 / カラー / 133分 / G
字幕：磯尚太郎
字幕監修：樋口裕子
配給：マジックアワー、ムヴィオラ
公式サイト：
https://moviola.jp/muginohana/

『隠入塵煙』は「ほこりや煙に紛れて隠れる」という意味で、創世記3・19の「あなたは塵だから塵に帰らなければならぬ」を連想！英題の「RETURN TO DUST」も似たものだが、その異同は？他方、ヨハネの福音書12・24の「二粒の麦、死なずば」を想起させる邦題は？激動する近代史の中を生き抜く夫婦愛を描いた『活きる』(94年)は、葛優の演技力と筆例の美しさが際立っていたが、同じく夫婦愛を描く本作の有鉄は周囲からバカにされた貧農の四男。妻の貴英は障害者で、いつも小便を漏らしているからアレ。本作では、互いに家族から厄介扱いされて結婚した二人が口八を引き、二ツトリを育てながら、借りた農地で黙々と小麦を育てる風景に注目！セリフはほとんどないから、有鉄役はズブの素人でもOK？

熱血弁護士
坂和章平
中国映画を語る(73)

映画を斬る「シリーズ」をはじめ映画に関する著書多数(公社)日中友好協会理事、NPO法人大阪府日中友好協会理事



(さかわ・しょうへい)
1949年愛媛県松山市生まれ、大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会、石川賞、同年日本不動産学会「実務者賞」を受賞。坂和章平の中国映画大観(2004年)『プロのオッサン』弁護士

『日本と中国』
2023年4月1日・No. 2275

弁護士兼映画評論家 坂和章平の出版物の紹介

<まちづくり本、法律書>



(96年5月) (01年6月) (03年9月) (04年11月) (05年4月) (07年7月) (08年4月) (15年11月) (17年6月)

<実況中継シリーズ全4冊>



(17年6月) (23年1月) (12年4月) (00年7月) (02年9月) (04年6月) (06年9月)

<その他の著書>



(04年5月) (05年10月)

<コラム集>



(05年8月) (13年12月) (19年4月)

<名作映画シリーズ>



(10年3月) (10年12月) (19年3月) (20年5月)

<中国語の著書>



(09年8月) (12年8月)



<『シネマルーム』シリーズ既刊全52巻>



(23年1月) (23年6月)

